

幼小中つながる通信 vol.89

発行：令和3年4月21日 袋井市教育委員会

日本の学校で学ぶために ～袋井市教育委員会「初期支援教室」～



初期支援教室での学習の様子

初期支援教室とは？

本市の小中学校には約 350 人（全体の 4.4%）の外国籍児童生徒が在籍しています。近年、日本国籍であっても両親のどちらかが外国籍であるなど、海外にルーツをもつ子どもが在籍するケースが全国的に増えています。

そのような子どもに対し、主に言葉の支援を行うのが、教育会館 2 階にある初期支援教室です。子どもたちは、午前中はこの初期支援教室で、午後は在籍している学校で学びます。初期支援教室に通う 12 週間の間に、基本的な日本語や生活習慣を習得し、在籍している小中学校での授業や生活につながっています。

年長児が授業を体験

昨年度末、教育委員会では「幼小中一貫教育のしくみ」を生かし、幼稚園の年長児が、学校の授業を体験する「わくわく体験会」を開催しました。参加した園児は、学校生活の流れや、学校で使用する学習用具の名前を覚えるなど、授業形式で学校生活を体験しました。このように、幼稚園から小学校につながる支援を行い、子どもたちが 4 月から小学校生活を円滑にスタートできるように努めています。

初期支援教室



母語を交えながら日本語を学ぶ



年長児が授業のあいさつを体験

